

<中心保育> 5歳児 ふじ組 担任 佐藤 麻友 教諭

<研修テーマ> 「友達のよさを認め合い、一緒に活動するための環境構成」

<ねらい>

- ・泡、泥、水に触れ、自分なりに考えたり工夫したりしながら楽しむ。
- ・友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを伝えたり、友達の言葉に耳を傾けたりする。

泡遊び・色水遊びに夢中です！

年中児のときから、泡遊び・色水遊びが大好きな年長児たちは、待ってましたかのごとく、どの子も夢中になって自分の遊びを楽しみました。すぐに手が届く位置に様々な材料が置いてあり、ますます子どもたちは、夢中になりました。

保育者は、そんな子どもたちに優しい眼差しを送り、子どもからの呼びかけには、「すごいね。」「そこからどうしていきたい？」など、子どもの言葉を丸ごと受け止めていました。



水道作りに夢中です！

泡遊び・色水遊びに多くの子どもが夢中になっている中で、樋を【窓】から家の中に送り込む子どもの姿が見られました。家の中には、別の子が位置を合わせているのでしょうか。樋を通じて水を流している子は、【水道】を作っていました。

保育者は、夢中になっているこの様子を優しく見守っていました。そのおかげで、この子は、様々な方法を考えながら水を流すことができました。



事後研修会(講師:静岡大学教育学部 教授 田宮 縁氏)



【指導講評より】

- ・子どもがいつでも手に取れる場所に様々な材料が置いてあったので、「やりたいこと」が実現できる環境が備わっていた。これは、子どもの『意見表明』が保障されていることと関連する。
- ・遊びにおける子どもの思いは、子どもの中でストーリーがあるからこそ継続する。保育者は、遊びの中での子どもの思いや、子ども同士の関わりを見取り、環境を構成していくことが大切である。